

「受賞者の声」

テーマ「職業能力開発の実践」

副題「開発課題におけるヒューマン・コンセプチュアルスキル向上についての考察」

独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

北陸職業能力開発大学校 橋本 清司

北陸職業能力開発大学校 浅井 英史

北陸職業能力開発大学校 高橋 茂信

この度は、職業能力開発論文コンクールにおいて、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞を賜り、誠にありがとうございました。執筆者一同大変喜んでおります。また本論文を執筆するにあたり多大なご支援を頂いた関係各位に深く感謝申し上げます。

副題にある開発課題（一般大学の卒業研究に相当する課題）は、地域の産業界が抱える技術的課題を題材に、ワーキンググループ形式により、企画・開発から製品評価までの一連の工程を行うことにより、課題の達成に必要な能力の習得を目指すものです。この開発課題では、機械系、電気系、電子情報系からそれぞれ5名程度の学生が参加し、社会ニーズに基づく有意義な内容となるように、具体的な装置の開発をテーマとして設定しています。その過程では、装置を利用する現場や製造工場を見学して、現状の問題点や改良点を考慮し、製作する装置の仕様を決定しています。

本論文では、学生の向上した能力の測定について、経済産業省の提唱する「社会人基礎力」の能力要素を用いて調査した結果をまとめています。まず企画から設計までの過程では、学生が学外活動を中心に行うことで、特にヒューマン・スキルが向上していると考えます。次に詳細設計から製作の過程では、創意工夫、問題発見と問題解決に取り組み、加えて役割分担と作業のスケジュール調整を行うことで完成させているなど、コンセプチュアル・スキルも向上していると考えます。また3系の学生が、各系の専門知識をわかりやすく教えあうなど、相乗効果による成長が得られました。このことから開発課題は、ヒューマン・コンセプチュアルスキルの向上が見込める課題であると考えます。

今後も高度職業訓練での開発課題実習を通じて、ものづくりに必要なテクニカル・スキルとともに、ヒューマン・コンセプチュアルスキルの向上に取り組み、地域に必要な人材を輩出できるよう努力していく所存です。